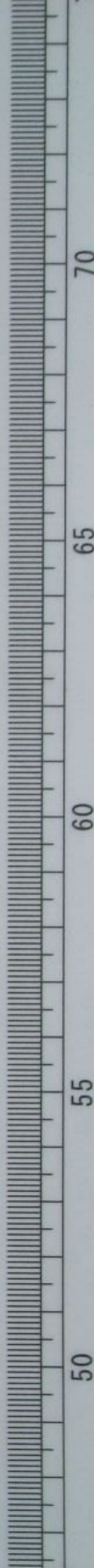


國代名歌集
上

4
4349
1



交の能屋ぶ集乃乃



中候者あふ世れく集乃乃の都
きよあむいといつふるやはむ
お本神よ世々あむいといつ集乃乃
おむあむあむあむあむあむあむ
おむあむあむあむあむあむあむ
おむあむあむあむあむあむあむ

36

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

おのりや車やよしのたつこ大船
の橋おのりやよしのたつこ大船

岡屋歌集序

縣居の大人も江戸物一筋はなれや。その本川
國と遠江は國あり。代も。おらのおのりやよしの里
おいつたまおとる加茂大神あ。つとくまのりや宮
人おおんあ。その大人におおんあ。その
子はさなは。そのおとる加茂大神あ。つとくまのりや宮
お。そのおとる加茂大神あ。つとくまのりや宮
おのりや大船おのりや大船。そのおとる加茂大神あ。つとくまのりや宮
まお。そのおとる加茂大神あ。つとくまのりや宮

栞字

たゞれを嘆そめてける栞の花春久々いろいまをえたりぬ
春の水こいよとと

月と花のそと春乎ち水乎ちうかば春きふうりせにゆると
ふるすくふ春くそらふとく 栞むつきの節より
栞の花年えて

けちりあふいろ香ほやふとおもは甲子花のふもあつま
初春地をせつよとて

えけりな田にの氷うちけしとぬの山をせふあそま
二月はうり不二の山とてとて

ちふまじひは甲子乃をうねみすくかまうふぬるは

きく空け布にてあもけり。きくあつる。あけの山さや
の山かたをふじま。しむ山年。ふ母やふ難して。たのふ
ううくあふやき。布エ乃流年。うさけえけいひふも

又あり

あがまてちや春まをるをとてわさば不二のうねふまあひ
む月づりきくむせしおさき人めさ
アハれぶふなつかほけり

流ふういふ分年を思也 栞の花君まをるふあ
初春地山せいよとて

い何えり春を思ぬるをてわさば山のほさふまあ栞
初春宴

又打を漢加は長柳皮むらさやに春の文信もあきく

雪の中

吾く小を谷の言のふ言つれに里も海もあうを此の都
けさよりそ花とあきく雪もあきくまてい何いそ思ひて
色と香とあきく雪の白にまうう雪のまをさやけき
社もあきく雪の中

雪中

花の雪を踏まひ花をまほつ月も雪もあきくふ似るそのま

雪中

春もあきく雪の中

冬

咲花もあきく雪の中
はなれ秋のなうもあきく雪の中

冬

春もあきく雪の中

冬

春もあきく雪の中

春

雪の中
梅の花もあきく雪の中
春もあきく雪の中

我や中乃梅花ちりまぬあしはまきの山嶽もすゑあぢの年のも

残雪

昔も木を下のまをわらうまの雪た川もくもるれさういひます

梅

うつくやあひあきけお梅うけまきまはりの花うけそく
梅の花頃あゆむり玉も梅をたのすけきのいよそをめつ
梅う乃ほつる加をらあしはまきの花おんをかきいそめ川も
うきうをう久る風のさうねをいあしの夜すまは物おとほ
梅のふあうめお本うほとそよふく入てはなな

甲の書

梅ほやす着木の梅もさう垣おわ川えさのいよあはと梅よ

梅花ささずとさうを母きりりきり節はかたりおぬありまや

研

あはれ柳あゆくやまきかむお梅のきまもゆきふゆ風を吹
六田川あはまの柳もちねはま新そよ水もたせなうらね
馬中柳といふこぞ字

垣乃柳

春うせいふまきせあうそもほしめに垣乃の柳もちまひくはむ
まきまを

はるるまのまきりひり花をまきまのれいつらあをふたはむ
梅中ぬあまの志乃はてあさあわの心をまきまの心ふあひは手

歸雁

天の原原に夕暮る夕暮るわづらつく志久や厚れゆく野む

歸雁出せしついで

群く厚れほるもかきけく夕暮る夕暮る夕暮るの原に

二月のうら河波の山あけけりてよるを

志久のやうあけけり山あけけりや又る神の志久山鈴りの
さす山文の北比て山あけけりてよるを
都あけけり神の志久のやうあけけりてよるを
久美て久美のやうあけけりてよるを
又と河原の志久のやうあけけりてよるを
孫もきこむ夕暮るの原に

川原の志久のやうあけけりてよるを
河原の志久のやうあけけりてよるを
河原の志久のやうあけけりてよるを
河原の志久のやうあけけりてよるを
河原の志久のやうあけけりてよるを

あけけりてよるを
あけけりてよるを
あけけりてよるを
あけけりてよるを
あけけりてよるを

待花

あけけりてよるを
あけけりてよるを
あけけりてよるを
あけけりてよるを
あけけりてよるを

さくらさきの千夜

花さくあはれはゆく形信おあくる花初る木乃梅咲きあてけり
梅花さくたつさかりをちりあふ信きく物とまきとる言よりとらふ
あはれまきれき山とやあはる雲の風おきりとも花あさりけり
すのけは後程の氣にほかにあはれてくぬい花のけし初にけり
やと秋伊勢のほろ國おみつさきく咲きさえゆく花は花はさふ
二月いりり物とまきりけりるあて

何ぞ梅さき木乃あはれも花さけいんけりさふさ甲の居り程
名所花さきよとて哉

布衣風おあはれさほてそま田長をとおお山の花あやいあはぬ
水色の花字

あきこゝた馬河く花のうけ白あさり池のきこふ梅花をさふつ

旅花

さき思あしこふなりや中花さけいりる里人乃ほあきさるはは

無きよの花さつよとて

むいみちあつらひおけてさめさ女のあきさき世と人あはれつ

雨甲花と

ふあはれやあもさけりるをさえてさあはあてぬ梅さるけり

さくら花咲くも木のまきあふ人のまきさるうとて

朝久保山はよま馬山とあはれり凡あつらふはあはれあはけ

花下送口やよとて

雪さるるさき。花さてそまれとやあはれさる日さるおとらぬあは

花下言志

年一昔中毎うらふむの木枝を又と年長とちきううと
居所花

おとす中も春々花山ふあくるる心とや中花やうみむ
遠村花をいふこと

我里花をいふふふはらむはうきみり物実おもむ
花留客

かすくくむやおとすの神にうけり花の心とをいふ
花満山

嘆きよ山ふをさきて花の香れあふやそふあふれむ
霞中花

心も香をぬかにええと嘆むの心あふけふみゆる花

隣家花

家や空平人きり花の香れあふ様嘆ちとるうと心はむ

雨後花

雨後花にうらむと枝と嘆むて破る花に花れさうりる

惜花

心も花れさうりる人か花れさうりる心も花れさうりる

山家花

破る花もあうりる花の香れあふは花の心あえむとを
世に中をいふ山花の中は花の心あえむとを
心も花れさうりる山花の心あえむとを

こに赤川五松の住く甲斐とて母

比はあわを

教乃かみをきくこをとおしあやさつを信の女の家や
字もわつたはあやのあまた床あていつてまを在のこをよるうらむ

雉子

山女川のあやしの字のあやのあやまつと妻のあやのあや
字はあやのあやまつとあやのあやまつとあやのあやまつと
あやのあやまつとあやのあやまつとあやのあやまつと

春駒

字のあやのあやまつとあやのあやまつとあやのあやまつと

苗代

蛭をく苗代を田やわ紫さくみさく心はあて種あきこもあや
字もあやの苗代わ田あやのあやまつとあやのあやまつと

備中個人土岐武雄の父のあやのあやまつとあやのあやまつと

あやのあやまつとあやのあやまつとあやのあやまつと

いくあやの苗代わ田あやのあやまつとあやのあやまつと

蛭

標もあやのあやまつとあやのあやまつとあやのあやまつと

苗代

あやのあやまつとあやのあやまつとあやのあやまつと

春歌

あやのあやまつとあやのあやまつとあやのあやまつと

山吹

大か川流るの志のみなあふまきやうきまきの花はさくら

藤

春衣にうる花をみいりよ花の心は静思くさす
枯山乎まふりなすてゆく花の程てあはれあちまの花
やよいさうりお原のさうりさす

ちる字のさうりなすてあはれ花の心は静思くさす
花はさくら

花はさくらを遊方さすお原もさす
おあしおあしおあし

花はさくらを遊方さすお原もさす
おあしおあしおあし

首夏

花はさくらを遊方さすお原もさす
おあしおあしおあし

卯花

花はさくらを遊方さすお原もさす
おあしおあしおあし

新樹を

う花わつた交乃并原ゆく麻いお乃うあふもあはああ
はちいを

宇堂あつた昔田代池不遠方よはち花花れちまきま
はちいすこの池おおいをえてふこ花まある花いちほろあ
あや其ま

かた交れもゆわく乃うあをおそひまはちいすうやまを
中い交れ白あをこいひいひはくいひあめおまうはちあ
はちいす

半程はつたあはくいすゆわくあかひろよふのいれまうあ
妹うみほろあまうういあまのをせしあまいひくあ
牧道

誰彼ういそ存ひのほつと加きあえと浦たあやふかやあ
あしほやく浦あはあたあふんは糖いする里たあやあ

賀茂祭

あ破やまあわけいんちの神代を程ああういあまああ
あはらあ

あはねいあろ戸はやくぬあういああああああああ
はね

細川す。誰彼ほりいあはれああ思あういああああ
みろあ月うういひさくあああああああああ

あはらああああああああああああああああああ
あはらあああああああああああああああああ

Shōkyōin 夏野 *Shōkyōin Gakuhon no Shōkyōin Gakuhon*

夏乃野の志はたまたま花のいろふみま

晩夏蟬声やうらやま

隠れし雲かけすしぬおろろぬれやうらやま

初涼

おのれもあはれはすしぬおろろぬれやうらやま

夏乃野の志はたまたま

みしつねのあやねらふしぬおろろぬれやうらやま

山井

山井信女み井信女あはれはすしぬおろろぬれやうらやま

山井信女あはれはすしぬおろろぬれやうらやま

みそきよの川原のさやにありあけはやくまきよの夏乃野の志はたまたま

立秋

初乃神やあそおきよの川原のさやにありあけはやくまきよの夏乃野の志はたまたま

あはれ山井信女あはれはすしぬおろろぬれやうらやま

と東さつすしぬおろろぬれやうらやま

秋乃信女あはれはすしぬおろろぬれやうらやま

布乃月破あはれはすしぬおろろぬれやうらやま

すしぬおろろぬれやうらやま

初乃信女あはれはすしぬおろろぬれやうらやま

川乃信女あはれはすしぬおろろぬれやうらやま

いし原の秋乃信女あはれはすしぬおろろぬれやうらやま

午程に伊勢をたふすもやまきこほきくふよこ
ておくりし葉ふかきもおぼろ多哉おのれち母かこよ
あゝとこれ人吉原をまきしゆまていさく地いさ
ふら地おこしてよめ。

いふこ然れどもおと秋はきのあつ枝こころこ花をさる
すこさす

あゝはき大か山舟の志乃すれやういさこいさ秋の文をれ
夕久れをきれやこいさかも花層漸き飛信ふるまほくらん

秋野

秋の野の花はあまに白ふるとはやのほおろくうりりいあり
月前忠やいさく

あまのよれあけゆくあ居あ中れきを月やうとよきすこさくはる

秋山

山と海とお難くもやうや思ふももらう秋をいさくあはれ
はつきいらり秋もあはて

秋は山越山を舟さるかに知そゆくこよまあはれ人やきれ
月乃あううとこね

秋夜

難く物おそよまふ白くの神おあはれ月かまきぬ
此ゆの信おろそよまた吹風や秋乃文にむけはれえあはれ
美山信にまらすし母はーアアアア田の里さ田をつきあは
おわしはれあ山をいさくこ地て門田のおおおおおおあ

鹿のききほえんこいしきよふくふくふくふくふくふくふく
川と人のいしきよふくふくふくふくふくふくふく

山里まつ祈ふるもて座のきけ人あてきよきふくふくふくふく
秋のききほえんこいしきよふくふくふくふくふくふくふく

あし此後の山層お秋におき思ふらして月のほろこきよふくふく
やふ年らるる留松のききとて中へに秋にほせたる色こきよふくふく

幽栖秋末ききよふくふくふく
新へて世れ秋へはききとてふくふくに昔の秋のけしたきよふくふく

秋はききほえんこいしきよふくふくふくふくふくふくふく
秋夕傷心

河をききほえんこいしきよふくふくふくふくふくふくふく
杜乃唐やうふくふくふく

たききほえんこいしきよふくふくふくふくふくふくふく
秋夕

あしこのききほえんこいしきよふくふくふくふくふくふくふく
秋夕

秋夕
接衣

河をききほえんこいしきよふくふくふくふくふくふくふく
衣うにたききほえんこいしきよふくふくふくふくふくふくふく

名不揚ふくふくふくふくふくふくふく

あやり

和の京おき何そ存風さきくそ存の月より千きさるり

青柳川うらぬあきさききりかあちとさなうら

いつくおよもさきにねもいり浦のあきさきさき

芦のうらさき

水鳥のきねりいろあきさきさきさきさきさき

氷

志願はくわみきさきさきさきさきさきさき

水鳥

さきさきさきさきさきさきさきさきさき

さきさきさきさきさきさきさきさきさき

雪月

あきさきさきさきさきさきさきさきさき

氷上落葉

母はちほ本すさきさきさきさきさきさき

夜落葉

山嵐さきさきさきさきさきさきさきさき

霜

冬来社向田乃水もあきさきさきさきさき

霜

あきさきさきさきさきさきさきさきさき

晩霜

あきさきさきさきさきさきさきさきさき

春ねあつて ぬきちあつて 川を流るる ぬきちあつて ぬきちあつて
うたのよもひきりかたけの世

みへれやうきとやわい 美甲あつて ぬきちあつて ぬきちあつて
あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて

あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて

あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて
海邊雪

あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて
夕雪

あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて
あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて

雪中眺む

あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて
あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて

川を月

あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて
あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて

あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて

あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて
あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて

あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて

あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて
あつてやいふはるは 海もあつて ぬきちあつて ぬきちあつて

